

EVENT
CALENDAR横浜市緑区民文化センター みどりアートパーク
イベントカレンダー

2025

4

APRIL

岡部館長が、聞く

真打ちに昇進する落語家

瀧川鯉丸さんインタビュー

一目ぼれで
この道に

笑顔で広める落語愛

「みどりアートパーク寄席」のレギュラーで、緑区在住のご近所噺家、としておなじみの瀧川鯉丸さんが5月に真打ちに昇進します。9月15日に当館で真打ち披露公演(※)を開催することも決まりました。「岡部館長が、聞く」の第5弾では、寄席のトリを取ることができ、落語芸術協会の看板落語家に仲間入りする鯉丸師匠に真打ちへの意気込みを伺いました。

落語の世界に入ったなら誰もが目指す真打ちの座。37歳にして一つの大きな目標を果たして「お客様が喜んでくださったのがうれしかった」と、自分のことではなく応援してくれる人たちのことを真っ先に挙げたところに人柄が出る。

横須賀に住んでいた高校3年生の大みそか、受験勉強中にラジオから流れてきた名人古今亭志ん朝の「芝浜」を聴いたことが人生を変えた。それが初めての落語で、「話だけでこんなに世界が広がるのかと思った。聴いていて気持ちがよくて心がすっきりした」とその世界のとりこになった。

落語界に進んだことを「一目ぼれみたいな感じ」と表現するように、そこからはまっしぐら。進学した早稲田大では落語研究会に入り、就職活動は一切せず、瀧川鯉丸師匠の門をたたいた。「普通どこかで立ち止まりますよね。思い込みが激しい

んですね」と話す言葉に落語愛がにじむ。

前座から二つ目になって4年目の2019年、中山で開かれた落語会でのご縁で緑区に引っ越した。その後のコロナ禍で宴席が減り、緑豊かな区内を散歩する機会が増えて95^{キロ}あった体重が約30^{キロ}も減量した。恩田川沿いのウォークは今も続ける。「交通の便がよく、鳥がいて畑があって暮らしやすい。緑区に住んで健康になりました」と区内での生活を楽しんでいる。

いよいよ真打ち。「落語には昔の日本の風習、生活がそのまま入っている。そういうところを若い人に伝えたい。ご近所の方にもお届けしたい。高3の僕のようにまだ落語に出会ってない人もいるから」。にっこり笑顔で落語愛を広める。

(※) みどりアートパーク寄席「祝！鯉丸真打昇進披露目会〜好楽、鯉昇、小痴楽〜」は6月8日⑧のみどりアートパーク寄席にて先行販売、翌9日⑨に一般販売予定。(詳細は次号)
★みどりアートパークの正面入口に、鯉丸さんの等身大パネルが設置されています。一緒に記念撮影をどうぞ。

